

やながわ

YANAGAWA 2011. No.159

11月1日

今号の内容

- ◆おかえりなさい大関 2~3
- ◆平成 22 年度決算のあらまし 4~9
- ◆第 7 回柳川市民まつりガイド 10~11
- ◆コミュニティバスのバス停と時刻表 12~13
- ◆第 24 回総合美術展ほか 14~15
- ◆市民のひろば (16-17) ◆川柳 (17) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (18-19) ◆情報わいど (20-27) ◆がんばったね・ぬくもり (27-28) ◆もちふみデビュー (29) ◆保健ガイド (30-31) ◆新市史抄片 (32)



柳川に咲いた大輪の菊

「おーぜきー、おめでとー」、掘割沿いに隙間なく並んだ人々が、小旗や手を振って琴奨菊の大関昇進を祝うと、船上の大関は晴れやかな笑顔でそれに応えました。10月15日に行われた、大関昇進報告水上パレードと柳川市民栄誉賞の授賞式には、市内外からおよそ2万人の人出があり、市や後援会の関係者を驚かせました。大関昇進後の初土俵を、地元、九州場所で迎える琴奨菊。初優勝という大輪の花を咲かせてくれることを、みんなが期待しています。

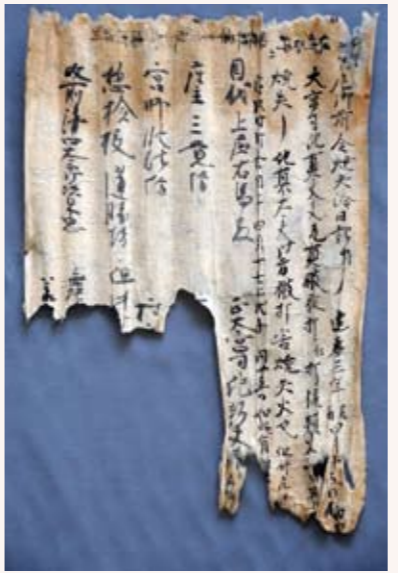
市史抄片

80

■ 問い合わせ
市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)

政所溝口太郎資忠

みやま市瀬高町の小田から矢部川に架かる南筑橋を渡ると筑後市溝口の集落に入る。この辺りは昔の下妻郡で、瀬高の町から福島(八女市)へ通じる福島往還の要地であった。この溝口には、戦国時代に筑後の有力国衆の一つに数えられていた溝口氏の館があった。独立性が強く、戦国大名大友氏の支配に対してもしばしば反抗し、結局天文十九年(一五五〇)に菊池義武と結んで大友義鎮に背いたため、「溝口要害」を攻め落とされて滅亡した。



祭礼関係文書写(鷹尾家文書)。上段の一番左に「政所溝口太郎資忠」の名前が見える。

「出自不詳」とされている。さて、鷹尾神社の古文書の中に祭礼関係の記録を集めたものがある。その中の「鷹尾御前令焼失給日記之事」と書かれた建暦三年(一一二二)の記事に記されて一人の人名が二段に列記され、その一人に「政所溝口太郎資忠」の名がある。建暦三年は鎌倉時代初期のころである。文書は破損がひどく全体の内容を把握できないが、焼失した社殿の修理に関わった人物を記しているようにも見える。「政所」とはこの場合瀬高下庄の管理運営に当たる事務官つまり庄官のことである。溝口太郎資忠は、下妻郡(庄)を本拠としながら瀬高下庄にも進出して荘園の経営に参画していたとみられる。「将士軍談」によれば、善導寺(久留米市)の鐘銘に「山門郡瀬高下庄理長勝律寺大檀那溝口藤原親資、応永廿三年(一四一六)とある、という。勝律寺という寺は不明だが、溝口親資

は先の太郎資忠に縁の者であろう。ちなみに、平安後期の康治三年(一一四四)、生葉郡の観世音寺領大石・山北封内で狼藉行為を働いて訴えられた武士団の中に「溝口三郎大夫」の名がみえる。資忠より一、二世代前に当たるが、やはり同族の者に相違ない。この三郎大夫と瀬高下庄との関係は不明であるが、戦国溝口氏の先祖は、古代末期から鎌倉初期にかけて、矢部川流域の下妻庄や瀬高下庄の荘園経営に関わった開墾領主の系譜を持つ一門であったことが、おぼろげながら見えてくる。だから、この鷹尾社祭礼記録にみえる政所溝口太郎資忠は、筑後の国衆溝口氏の歴史を考える上で貴重な存在ということが出来る。

市史編集委員 大城美知信

9月1日号に「三忠苑の楷樹」を紹介したところ、市民の方から、三柱神社の楼門向かって左横と伝習館高校の2か所に楷樹があるとの連絡を受けました。いずれも平成10年藩校サミットの折に日新館から贈られたとのこと(錦織)。

人のうごき

平成 23 年 9 月末現在

- 人口 71,712 人 (前月比-36)
- 男 33,954 人 (-28)
- 女 37,758 人 (-8)
- 出生 45 人、死亡 55 人
- 転入 120 人、転出 146 人
- 世帯数 24,600 世帯 (+31)

●今年のは柿の表年だったようだ。わが家の渋柿も豊作だったので、先日、家族総出で干し柿作りをした。途中、息子が渋柿を食べたことがないと言った。試みに食べさせてみると、予想どおりの渋い顔。干し柿が甘味に変わる不思議な味あわせてやろう。●秋は文化行事などが多く催される。中でも11月1日から3日の夜に行われる恒例の白秋祭水上パレードは写真の撮影が難しい。プロならまだしも「ど」がつく素人。毎年ドキドキしながら職場に戻って写真を確認。今年は下手な鉄砲でも数を打って当たるように、運に期待したい。(賢治)

●琴奨菊の水上パレードにはプロのカメラマンが大勢来ていた。プロの世界には先に場所を取ったカメラの邪魔になつてはいけないというルールが。夢中で琴奨菊を撮っていると後ろにカメラの気配。やばっ!と思って振り返るとカメラは私の頭の上。身長低くてよかった。(和久)